



## scope コマンド

---

- [scope](#) (3 ページ)
- [scope adapter](#) (5 ページ)
- [scope app-software](#) (6 ページ)
- [scope auto-install](#) (7 ページ)
- [scope auto-macpool](#) (8 ページ)
- [scope banner](#) (10 ページ)
- [scope cabling](#) (11 ページ)
- [scope callhome](#) (12 ページ)
- [scope card](#) (13 ページ)
- [scope cfg-export-policy](#) (14 ページ)
- [scope cfg-export-reminder](#) (16 ページ)
- [scope chassis](#) (17 ページ)
- [scope cloud-connector](#) (18 ページ)
- [scope default-auth](#) (19 ページ)
- [scope eth-uplink](#) (20 ページ)
- [scope export-config](#) (21 ページ)
- [scope fabric](#) (22 ページ)
- [scope fabric-interconnect](#) (23 ページ)
- [scope fan-module](#) (24 ページ)
- [scope firmware](#) (25 ページ)
- [scope firmware-install](#) (26 ページ)
- [scope flow-control](#) (27 ページ)
- [scope health monitoring policy](#) (28 ページ)
- [scope hw-crypto](#) (30 ページ)
- [scope import-config](#) (32 ページ)
- [scope interface](#) (33 ページ)
- [scope ipsec](#) (35 ページ)
- [scope ipv6-config](#) (36 ページ)
- [scope ldap](#) (37 ページ)

- [scope licdebug](#) (38 ページ)
- [scope license](#) (39 ページ)
- [scope mem-leak-logging](#) (40 ページ)
- [scope monitoring](#) (41 ページ)
- [scope org](#) (42 ページ)
- [scope packet-capture](#) (43 ページ)
- [scope password-profile](#) (44 ページ)
- [scope profile](#) (45 ページ)
- [scope reservation](#) (46 ページ)
- [scope security](#) (47 ページ)
- [scope server](#) (48 ページ)
- [scope service-profile](#) (49 ページ)
- [scope slot](#) (50 ページ)
- [scope ssa](#) (51 ページ)
- [scope stats-collection-policy](#) (52 ページ)
- [scope stats-threshold-policy](#) (54 ページ)
- [scope system](#) (56 ページ)
- [scope vnic](#) (57 ページ)

## scope

既存の管理対象オブジェクトを「範囲設定」（入力）するには、適切なコマンドモードで該当する **scope** コマンドを使用します。

**scope** *object\_type* *name* [*parameters*]

構文の説明	<p><i>object_type</i> 開始するオブジェクトのタイプ。例には、ローカルユーザアカウントと組織が含まれています。</p> <hr/> <p><i>name</i> 開始する特定のオブジェクトの名前。</p> <hr/> <p>パラメータ (オプション) オブジェクトの識別に必要な追加のプロパティまたはパラメータ。このコマンドを使用する場合、一般的にオブジェクトの識別には <i>name</i> で十分です。詳細については、特定のオブジェクトに対する <b>create</b> コマンドの説明を参照してください。</p>
コマンドモード	<p>範囲設定するオブジェクトのタイプに応じて異なります。詳細については、特定のオブジェクトに対する <b>create</b> コマンドの説明を参照してください。</p>
コマンド履歴	<p>履歴情報については、特定のオブジェクトに対する <b>create</b> コマンドの説明を参照してください。</p>
使用上のガイドライン	<p>オブジェクトは、管理可能な物理コンポーネントエンティティまたは論理エンティティを抽象的に表現したものです。たとえば、シャーシ、セキュリティモジュール、ネットワークモジュール、ポート、プロセッサは、管理対象オブジェクトとして表現される物理コンポーネントです。また、ライセンス、ユーザロール、プラットフォームポリシーは、管理対象オブジェクトとして表現される論理エンティティです。</p> <p>FXOS には、オブジェクト管理用に一般的な 4 つのコマンド (<b>create</b>、<b>delete</b>、<b>enter</b>、<b>scope</b>) があります。たとえば、ローカルユーザアカウントの作成、ローカルユーザアカウントの削除、ローカルユーザアカウントの入力を行い、そのアカウントのプロパティを割り当てまたは変更することができます。また、ローカルユーザアカウントを「調査」し、プロパティを割り当てまたは変更することもできます。</p> <p>通常、これらのオブジェクト管理コマンドごとに利用可能なキーワードとオプションは同じであるため、さまざまなオブジェクトコマンドの <b>create</b> バージョンだけについて説明します。つまり、特定のオブジェクトの <b>delete</b> コマンドの詳細については、そのオブジェクトの <b>create</b> コマンドの説明を参照してください。たとえば、既存のローカルユーザアカウントの範囲設定に関連する情報については、<a href="#">create local-user</a> を参照してください。</p>

### 例

次の例は、セキュリティモードを開始して、ローカルユーザアカウントを範囲設定し、アカウントの詳細を表示する方法を示しています。

```

firepower # scope security
firepower /security # scope local-user test_user
firepower /security/local-user # show detail
Local User test_user:
  First Name: test
  Last Name: user
  Email: test_user@testuser.com
  Phone:
  Expiration: Never
  Password: ****
  User lock status: Not Locked
  Account status: Active
  User Roles:
    Name: admin
    Name: read-only
  User SSH public key:
firepower /security/local-user #

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>create local-user</b>	新規のローカルユーザアカウントを作成します。
<b>enter local-user</b>	ローカルユーザアカウントを追加または編集します。
<b>delete local-user</b>	既存のローカルユーザアカウントを削除します。

## scope adapter

アダプタ モードを開始するには、**scope adapter** コマンドを使用します。

**scope adapter** {*rack\_server/id* | *chassis/server/id*}

構文の説明	<i>rack_server/id</i>	n/n 形式で入力されたラック サーバおよびアダプタ ID で指定されたアダプタの場所。
	<i>chassis/server/id</i>	n/n/n 形式で入力されたシャーシ、サーバ、およびアダプタ ID で指定されたアダプタの場所。  (注) シャーシ ID は常に <b>1</b> です。

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** アダプタ モードでは、ファームウェア バージョンを有効化または更新し、さまざまなアダプタ固有のデータを表示し、ホストおよび外部イーサネットインターフェイスに範囲設定できません。

### 例

次の例は、シャーシ、サーバ、およびアダプタ ID を使用してアダプタ モードを開始する方法を示しています。

```
firepower# scope adapter 1/1/1
firepower /chassis/server/adapter #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>connect adapter</b>	特定のアダプタのコマンド シェルに接続します。
	<b>scope chassis</b>	シャーシ モードを開始します。

# scope app-software

アプリケーションソフトウェア モードを開始するには、**scope app-software** コマンドを使用します。

## scope app-software

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

scope ssa/

### コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

アプリケーションソフトウェア モードで **download image** コマンドを使用すると、論理デバイス ソフトウェア イメージを Firepower 4100/9300 シャーシにコピーできます。

### 例

次の例は、アプリケーションソフトウェア モードを開始する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope app-software
firepower /ssa/app-software #
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>download image</b>	論理デバイス ソフトウェア イメージを Firepower 4100/9300 シャーシにコピーします。
<b>show download-task</b>	イメージファイルのダウンロードの進行状況を表示します。

# scope auto-install

インフラストラクチャ更新の自動インストールモードを開始するには、**scope auto-install** コマンドを使用します。

## scope auto-install

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。				
コマンドモード	ファームウェア (/firmware) モード				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1.4(1)</td><td>コマンドが追加されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	1.4(1)	コマンドが追加されました。
リリース	変更内容				
1.4(1)	コマンドが追加されました。				
使用上のガイドライン	なし				

## 例

次の例は、ファームウェアモードを開始して、自動インストールモードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # scope auto-install
FP9300-A /firmware/auto-install #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>install platform</b>	UCS インフラ コンポーネント (UCSM、FI、IOM) を指定されたインフラバージョンにアップグレードします。

# scope auto-macpool

コンテナ インスタンス インターフェイスの MAC アドレス プールを管理するには、**scope auto-macpool** コマンドを使用します。

## scope auto-macpool

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	scope ssa/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.4(1)	コマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** FXOS シャーシは、各インスタンスの共有インターフェイスが一意的 MAC アドレスを使用するように、コンテナインスタンスインターフェイスの MAC アドレスを自動的に生成します。アプリケーション内の共有インターフェイスに MAC アドレスを手動で割り当てると、手動で割り当てられた MAC アドレスが使用されます。後で手動 MAC アドレスを削除すると、自動生成されたアドレスが使用されます。生成した MAC アドレスがネットワーク内の別のプライベート MAC アドレスと競合することがまれにあります。この場合は、アプリケーション内のインターフェイスの MAC アドレスを手動で設定してください。

自動生成されたアドレスは A2 で始まるため、アドレスが重複するリスクがあることから手動 MAC アドレスを A2 で始めることはできません。



- (注) MAC アドレスを手動で設定すると、サブインターフェイスを共有していない場合でも、分類が正しく行われるように、同じ親インターフェイス上のすべてのサブインターフェイスで一意的 MAC アドレスを使用します。

FXOS シャーシは、次の形式を使用して MAC アドレスを生成します。

A2xx.yyzz.zzzz

xx.yy はユーザ定義のプレフィックスまたはシステム定義のプレフィックスであり、zz.zzzz はシャーシが生成した内部カウンタです。システム定義のプレフィックスは、IDPROM にプログラムされている Burned-in MAC アドレス内の最初の MAC アドレスの下部 2 バイトと一致します。**connect fxos** を使用し、次に **show module** を使用して、MAC アドレスプールを表示します。たとえば、モジュール 1 について示されている MAC アドレスの範囲が b0aa.772f.f0b0 ~ b0aa.772f.f0bf の場合、システムプレフィックスは f0b0 になります。

ユーザ定義のプレフィックスは、16 進数に変換される整数です。ユーザ定義のプレフィックスの使用法を示す例を挙げます。プレフィックスとして 77 を指定すると、シャーシは 77 を 16



進数値 004D (yyxx) に変換します。MAC アドレスで使用すると、プレフィックスはシャーマンネイティブ形式に一致するように逆にされます (xxyy)。

**A24D.00**zz.zzzz

プレフィックス 1009 (03F1) の場合、MAC アドレスは次のようになります。

**A2F1.03**zz.zzzz

### 例

次に、mac-pool モードを開始する例を示します。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope auto-macpool
firepower /ssa/auto-macpool #
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>scope ssa</b>	ssa モードを開始します。
<b>set prefix</b>	MAC アドレス プレフィックスを設定します。
<b>show mac-address</b>	指定された MAC アドレスを表示します。

# scope banner

バナー管理モードを開始するには、**scope banner** コマンドを使用します。

## scope banner

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	scope security/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	このモードでは、ユーザログインの前にアプライアンスによって表示されるバナーを管理できます。	

### 例

次の例は、バナーモードを開始し、現在のログイン前バナーを表示する方法を示しています。

```
firepower # scope security
firepower /security # scope banner
firepower /security/banner # show pre-login-banner

Pre login banner:
  Message
  -----
  Firepower-9300-2
  Western Data Center

firepower /security/banner #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>clear message</b>	既存のログイン前バナーからテキストを削除します。実際のバナーオブジェクト自体は削除されません。
	<b>create pre-login-banner</b>	ログイン画面の前に表示されるバナーを作成します。初期のバナーオブジェクトは空です。
	<b>set message</b>	ログイン前バナーとして表示されるテキストの行を追加または置き換えます。

## scope cabling

ケーブル接続モードを開始するには、**scope cabling** コマンドを使用します。

### scope cabling

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	ケーブル接続モードからファブリック モードにアクセスできます。このモードでは、ポートブレイクアウトを表示および管理できます。	

### 例

次の例は、ケーブル接続モードを開始する方法を示します。

```
FP9300-A # scope cabling
FP9300-A /cabling #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>scope fabric-interconnect</b>	ファブリック インターコネクト モードを開始します。

# scope callhome

callhome モードを開始するには、**scope callhome** コマンドを使用します。

## scope callhome

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

monitoring モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

### 例

次の例は、monitoring モードから callhome モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A#scope monitoring
FP9300-A /monitoring # scope callhome
FP9300-A /monitoring/callhome #
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show callhome</b>	Call Home の設定およびステータス情報を表示します。

# scope card

特定のファブリックカードの管理モードを開始するには、**scope card** コマンドを使用します。

**scope card** *card\_ID*

構文の説明	<i>card_ID</i>	ファブリックカードの数値識別子。
コマンドモード	scope fabric-interconnect/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	cardモードでは、ファブリックカードのオフラインまたはオンラインに切り替えることができます。	

## 例

次の例は、**card**モードを開始し、利用可能なコマンドを表示する方法を示しています。

```
firepower# scope fabric-interconnect
firepower /fabric-interconnect # scope card 2
firepower /fabric-interconnect/card # ?
  acknowledge  Acknowledge
  scope        Changes the current mode
  set          Set property values
  show        Show system information

firepower /fabric-interconnect/card #
```

コマンド	説明
<b>set adminstate</b>	ファブリックカードのオフラインまたはオンラインを切り替えます。

# scope cfg-export-policy

設定のエクスポートポリシーを入力するには、**scope cfg-export-policy** コマンドを使用します。

## scope cfg-export-policyname

構文の説明	<i>name</i>	入力する設定エクスポート ポリシーの名前。  設定エクスポート ポリシーを作成または削除することはできません。既存のデフォルトポリシーの設定だけを行うことができます。ポリシー名として <b>default</b> を入力します。
コマンドモード	scope org/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.1	コマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** 設定エクスポート ポリシーを作成または削除することはできません。既存のデフォルトポリシーのみを設定できます。

### 例

次の例は、設定のエクスポートポリシーを入力し、現在の設定の詳細を表示する方法を示しています。

```
firepower # scope org
firepower /org # scope cfg-export-policy default
firepower /org/cfg-export-policy # show detail
Config Export policy:
  Name: default
  Description: Configuration Export Policy
  Admin State: Enable
  Protocol: Ftp
  Hostname: 192.168.1.2
  User: user1
  Remote File: /export/cfg-backup.xml
  Schedule: Daily
  Port: Default
  Current Task:
firepower /org/cfg-export-policy #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>export-config</b>	現在のシステム設定をリモートサーバにXMLファイルとしてエクスポートします。エクスポート設定オブジェクトを作成します。
	<b>import-config</b>	以前にエクスポートしたXMLコンフィギュレーションファイルをこのアプライアンスにコピーします。

コマンド	説明
<b>set password-encryption-key</b>	設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときに使用されるキーを指定します。

# scope cfg-export-reminder

設定エクスポートの通知オブジェクトを入力するには、**scope cfg-export-reminder** コマンドを使用します。

## scope cfg-export-reminder

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	scope org/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.0.1	コマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** 設定エクスポートの通知オブジェクトを作成または削除することはできません。既存の通知オブジェクトのみを設定できます。

### 例

次の例は、設定エクスポートの通知オブジェクトを入力し、現在の設定を表示する方法を示しています。

```
firepower # scope org
firepower /org # scope cfg-export-reminder
firepower /org/cfg-export-reminder # show

Config Export Reminder:
  Config Export Reminder (Days): 30
  AdminState: Enable
firepower /org/cfg-export-reminder #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>import-config</b>	以前にエクスポートした XML コンフィギュレーションファイルをこのアプライアンスにコピーします。
	<b>scope cfg-export-policy</b>	設定エクスポート ポリシーを入力します。
	<b>set password-encryption-key</b>	設定のエクスポート中に機密情報を暗号化するときに使用されるキーを指定します。



## scope chassis

シャーシモードを開始するには、**scope chassis** コマンドを使用します。

**scope chassis** *chassis\_id*

構文の説明	<i>chassis_id</i>	シャーシ ID 番号。この値は常に <b>1</b> です。
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、シャーシモードの開始方法を示します。

```
firepower# scope chassis 1  
firepower /chassis #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show chassis</b>	シャーシ情報を表示します。

# scope cloud-connector

クラウドコネクタモードを開始するには、**scope cloud-connector** コマンドを使用します。

## scope cloud-connector

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、クラウドコネクタモードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope cloud-connector
FP9300-A /cloud-connector #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show cloud-connector</b>	クラウドコネクタの設定情報を表示します。

## scope default-auth

デフォルトの認証モードを開始するには、**scope default-auth** コマンドを使用します。

### scope default-auth

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	セキュリティ モード 認証ドメイン (/security/auth-domain)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.4(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	<p>このモードで <b>set</b> コマンドを使用して、認証サービスやセッション タイムアウト値などのデフォルトの認証パラメータを設定します。</p> <p>ドメインのデフォルトの認証モードを開始するには、このコマンドを使用する前に認証ドメインを作成する必要があります。</p> <p><b>例</b></p> <p>次の例は、セキュリティモードを開始し、デフォルトの認証モードを開始する方法を示しています。</p> <pre>FP9300-A# scope security FP9300-A /security # scope default-auth FP9300-A /security/default-auth #</pre>	
関連コマンド	コマンド	説明
	<b>set realm</b>	デフォルトの認証サービスを設定します。
	<b>show</b>	デフォルトの認証設定を表示します。

# scope eth-uplink

イーサネットアップリンク モードを開始するには、**scope eth-uplink** コマンドを使用します。

## scope eth-uplink

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

### 例

次の例は、イーサネットアップリンク モードを開始する方法を示しています。

```
firepower#scope eth-uplink
firepower /eth-uplink #
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show</b>	イーサネットアップリンク情報を表示します。

## scope export-config

既存のエクスポート設定オブジェクトを入力するには、**scope export-config** コマンドを使用します。

**scope export-config***hostname*

構文の説明	<i>hostname</i>	エクスポート設定オブジェクトの識別子。これは、設定がバックアップされているリモートサーバの名前または IP アドレスです。
コマンドモード	scope system/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.(1)	コマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** エクスポート設定オブジェクトは、現在の論理デバイスおよびプラットフォーム設定をバックアップする **export-config** コマンドを発行する場合に作成されます。**scope export-config** は、オブジェクトを入力してパラメータを編集するために使用されます。エクスポート設定オブジェクトに関連する **create** または **enter** コマンドはありません。エクスポート設定オブジェクトの削除には、**delete** コマンドを使用できます。

### 例

次の例は、以前にエクスポートされた設定オブジェクトを有効にする方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope export-config 192.168.1.2
firepower /system/export-config #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>cfg-export-policy</b>	設定のエクスポートポリシーを指定します。
	<b>delete export-config</b>	既存のエクスポート設定オブジェクトを削除します。
	<b>export-config</b>	現在のシステム設定をリモートサーバに XML ファイルとしてエクスポートします。エクスポート設定オブジェクトを作成します。

## scope fabric

ファブリック モードを開始するには、**scope fabric** コマンドを使用します。

**scope fabric** [a]

構文の説明	<b>a</b>	ファブリック A を指定します。Firepower デバイスにはファブリックが1つしかありません。このキーワードの使用は任意です。
コマンドモード	scope eth-uplink/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	ファブリック モードでは、インターフェイス、ポート チャネル、集約インターフェイス、および VLAN を管理できます。	

### 例

次の例は、ファブリック モードを開始する方法を示しています。

```
firepower# scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show interface</b>	ファブリック モードでは、すべてのデバイス インターフェイスの情報が表示されます。
	<b>show port-channel</b>	ファブリック モードでは、すべてのポートチャネルの情報とステータスが表示されます。

## scope fabric-interconnect

ファブリック インターコネクト モードを開始するには、**scope fabric-interconnect** コマンドを使用します。

### scope fabric-interconnect a

構文の説明	<b>a</b>	ファブリック A を指定します。Firepower デバイスにはファブリックが1つしかありません。
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、ファブリック インターコネクト モードの開始方法を示しています。

```
firepower# scope fabric-interconnect a
firepower /fabric-interconnect #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show fabric-interconnect</b>	ファブリック インターコネクトの情報を表示します。

## scope fan-module

特定のファン モジュールを入力するには、シャーシ モードで **scope fan-module** コマンドを使用します。

**scope fan-module** {**1** *module\_id*}

構文の説明	<i>tray_id</i>	<i>tray_id</i> は常に <b>1</b> です。
	<i>module_id</i>	入力する特定のファンモジュールを指定します。値は1～8です。
コマンドモード	scope chassis/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、fan-module モードを開始にする方法を示しています。

```
firepower# scope chassis
firepower /chassis # scope fan-module 1 2
firepower /chassis/fan-module #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>scope fan</b>	特定のファンを有効にします。



## scope firmware

ファームウェア モードを開始するには、**scope firmware** コマンドを使用します。

### scope firmware

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。	

### 例

次の例は、ファームウェア モードの開始方法を示します。

```
firepower# scope firmware
firepower /firmware #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show server firmware</b>	サーバファームウェア情報を表示します。
	<b>show server version</b>	サーバファームウェアバージョンを表示します。

# scope firmware-install

firmware-installation モードを開始するには、**scope firmware-install** コマンドを使用します。

## scope firmware-install

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	ファームウェア モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	この scope を使用して、以前にダウンロードしたファームウェアパッケージでシステムファームウェアを更新します。	

### 例

次の例は、firmware-installation モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope firmware
FP9300-A /firmware # scope firmware-install
FP9300-A /firmware-install #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>download image</b>	ファームウェア パッケージをダウンロードします。
	<b>install firmware</b>	ファームウェア パッケージをインストールします。

# scope flow-control

フロー制御モードを開始するには、**scope flow-control** コマンドを使用します。

## scope flow-control

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

scope eth-uplink/

### コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1.1	コマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

フロー制御ポリシーは、ポートの受信バッファがいっぱいになったときに、イーサネットポートが IEEE 802.3x ポーズフレームを送受信するかどうかを決定します。これらのポーズフレームは、バッファがクリアされるまでの数ミリ秒間、送信側ポートからのデータの送信を停止するように要求します。デバイス間でフロー制御が行われるようにするには、両方のデバイスで、対応する送信および受信フロー制御パラメータを有効にする必要があります。

デフォルトのフロー制御ポリシーは、送受信の制御を無効にし、自動ネゴシエーションに優先順位を設定します。

### 例

次の例は、フロー制御モードを開始し、現在のポリシー情報を表示する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope flow-control
firepower /eth-uplink/flow-control # show policy detail
Flowctrl policy:
  Name: default
  receive: Off
  send: Off
  Prio: Auto
firepower /eth-uplink/flow-control #
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>create policy</b>	新しい名前付きフロー制御ポリシーを追加します。
<b>set</b>	フロー制御/ポリシーモードで、フロー制御ポリシーのプロパティを設定します。
<b>show policy</b>	フロー制御ポリシーのプロパティ値を表示します。

# scope health monitoring policy

## メモリ使用量のメトリック

収集されたメモリ統計情報は、CLI を使用して、**scope** 'stats-collection-memory' の下で有効または無効にすることができます。デフォルトでは有効に設定されています。

また、すべてのメモリモニタリング障害に関する障害しきい値を設定することができます。しきい値 (**threshold-value**) は 50 ~ 99 の範囲で指定できます。デフォルトでは 95% に設定されています。

```
scope health-monitoring-policy
scope stats-collection-memory
enable | disable
set fault-threshold <threshold-value>
```

---

コマンドモード monitoring モード

---

コマンド履歴

リリース	変更内容
2.11.1	このコマンドが導入されました。

---

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、メモリモニタリングを有効または無効にしたり、すべてのメモリモニタリング障害の障害しきい値を変更することができます。

## 例

```
firepower# scope monitoring
firepower /monitoring # scope health-monitoring-policy
firepower /monitoring/health-monitoring-policy # scope stats-collection-memory
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-memory # set
fault-threshold 75
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-memory # disable
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-memory* # commit-buffer
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-memory # show
Memory stats collection policy:
Admin State Fault-Threshold (%)
-----
Disabled 75
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-memory # show detail
Admin State: Disabled
Fault Threshold (%): 75
```

## CPU 使用量のメトリック

収集された CPU 統計情報は、CLI を使用して、**scope** 'stats-collection-cpu' の下で有効または無効にすることができます。デフォルトでは有効に設定されています。

また、すべての CPU モニタリング障害に関する障害しきい値を設定することができます。しきい値 (threshold-value) は 50 ~ 99 の範囲で指定できます。デフォルトでは 90% に設定されています。

```
scope health-monitoring-policy
scope stats-collection-cpu
enable | disable
set fault-threshold <threshold-value>
```

---

**コマンド モード**

monitoring モード

---

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
2.11.1	このコマンドが導入されました。

---

**使用上のガイドライン**

このコマンドを使用すると、CPU モニタリングを有効または無効にしたり、すべての CPU モニタリング障害の障害しきい値を変更することができます。

**例**

```
firepower# scope monitoring
firepower /monitoring # scope health-monitoring-policy
firepower /monitoring/health-monitoring-policy # scope stats-collection-cpu
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-cpu # set fault-threshold
85
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-cpu # enable
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-cpu * # commit-buffer
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-cpu # show
Cpu stats collection policy:
Admin State Fault-Threshold (%)
-----
Enabled 85
firepower /monitoring/health-monitoring-policy/stats-collection-cpu # show detail
Admin State: Enabled
Fault Threshold (%): 85
```

## scope hw-crypto

コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーションを有効または無効にするには、**scope hw-crypto** コマンドを使用します。TLS 暗号化アクセラレーションに関する詳細については、*Management Center* コンフィギュレーションガイドを参照してください。

### scope hw-crypto

コマンドモード	connect module	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	2.7.1	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドにより、コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーションが有効または無効になります。	

### 例

次に、コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーションを有効にする例を示します。

```
scope ssa
/ssa # show app-instance
```

App Name	Identifier	Slot ID	Admin State	Oper State	Running Version	Startup Version
Version	Deploy Type	Turbo Mode	Profile Name	Cluster State	Cluster	Role
ftd	FTD-FDM	1	Enabled	Online	6.5.0.1159	6.5.0.1159
	Native	No		Not Applicable	None	
ftd	ftd2	2	Enabled	Online	6.5.0.1159	6.5.0.1159
	Container	No	Default-Small	Not Applicable	None	

```

/ssa # sc slot 2
/ssa/slot # scope app-instance ftd ftd2
/ssa/slot/app-instance # scope hw-crypto
/ssa/slot/app-instance/hw-crypto # set admin-state enabled
/ssa/slot/app-instance/hw-crypto* # commit-buffer

```

次に、コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーションを無効にする例を示します。

```
scope ssa
/ssa # show app-instance
```

App Name	Identifier	Slot ID	Admin State	Oper State	Running Version	Startup Version
Version	Deploy Type	Turbo Mode	Profile Name	Cluster State	Cluster	Role
ftd	FTD-FDM	1	Enabled	Online	6.5.0.1159	6.5.0.1159
	Native	No		Not Applicable	None	
ftd	ftd2	2	Enabled	Online	6.5.0.1159	6.5.0.1159
	Container	No	Default-Small	Not Applicable	None	

```
/ssa # sc slot 2
/ssa/slot # scope app-instance ftd ftd2
/ssa/slot/app-instance # scope hw-crypto
/ssa/slot/app-instance/hw-crypto # set admin-state disabled
/ssa/slot/app-instance/hw-crypto* # commit-buffer
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>create hw-crypto</b>	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を作成します。
<b>delete hw-crypto</b>	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定を削除します。
<b>show hw-crypto</b>	コンテナインスタンスの TLS 暗号化アクセラレーション 設定のステータスを表示します。

## scope import-config

既存のインポート設定オブジェクトを入力するには、**scope import-config** コマンドを使用します。

**scope import-config***hostname*

構文の説明	<i>hostname</i>	インポート設定オブジェクトの識別子。これは、設定が格納されているリモート サーバの名前または IP アドレスです。
-------	-----------------	---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.(1)	コマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** エクスポート設定オブジェクトは、現在の論理デバイスおよびプラットフォーム設定をバックアップする **export-config** コマンドを発行した場合に作成されます。**import-config** コマンドは、以前にエクスポートされたコンフィギュレーション ファイルをインポートするために使用され、同時にインポート設定オブジェクトを作成します。

**scope import-config** を使用すると、既存のインポート設定オブジェクトを入力し、そのパラメータを編集できます。インポート設定オブジェクトには、**create** または **enter** コマンドは関連付けられていません。インポート設定オブジェクトの削除には、**delete** コマンドを使用できます。

### 例

次の例は、既存のインポート設定オブジェクトを有効にする方法を示しています。

```
firepower # scope system
firepower /system # scope import-config 192.168.1.2
firepower /system/import-config #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>cfg-export-policy</b>	設定のエクスポート ポリシーを指定します。
	<b>delete import-config</b>	既存のインポート設定オブジェクトを削除します。
	<b>import-config</b>	以前にエクスポートしたシステム設定をリモート サーバからインポートします。インポート設定オブジェクトを作成します。



## scope interface

特定のインターフェイスのコンフィギュレーションモードを開始するには、**scope interface** コマンドを使用します。

**scope interface** {*Ethernet*slot\_id|port\_id|slot\_num}

構文の説明	<b>Ethernet</b> slot_id	イーサネットポート名。
	slot_num	インターフェイスのスロット番号。
コマンドモード	scope eth-uplink/scope fabric a/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1.1	コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、特定のインターフェイスのコンフィギュレーションモードを開始し、現在の設定を表示する方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope fabric a
firepower /eth-uplink/fabric # scope interface Ethernet1/5
firepower /eth-uplink/fabric/interface # show detail
```

```
Interface:
  Port Name: Ethernet1/5
  User Label:
  Port Type: Data
  Admin State: Enabled
  Oper State: Up
  State Reason:
  flow control policy: default
  Auto negotiation: No
  Admin Speed: 1 Gbps
  Oper Speed: 1 Gbps
  Admin Duplex: Full Duplex
  Oper Duplex: Full Duplex
  Ethernet Link Profile name: default
  Oper Ethernet Link Profile name: fabric/lan/eth-link-prof-default
  Udid Oper State: Admin Disabled
  Inline Pair Admin State: Enabled
  Inline Pair Peer Port Name:
  Allowed Vlan: All
  Network Control Policy: default
  Current Task:
firepower /eth-uplink/fabric/interface #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>disable</b>	現在のインターフェイスを無効にします。
	<b>enable</b>	現在のインターフェイスを有効にします。
	<b>set</b>	インターフェイスモードで、インターフェイス コンフィギュレーションパラメータを設定します。
	<b>show interface</b>	インターフェイスの設定とステータスに関する情報を表示します。

## scope ipsec

IPSec モードを開始するには、**scope ipsec** コマンドを使用します。

### scope ipsec

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	セキュリティ モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。	

### 例

次の例は、IPSec モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope security
FP9300-A /security # scope ipsec
FP9300-A /security/ipsec #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show connection</b>	IPSec の接続情報を表示します。

## scope ipv6-config

ファブリックの IPv6 管理インターフェイスを設定できる場合、IPv6 設定モードを開始するには、ファブリック インターコネクト モードで **scope ipv6-config** コマンドを使用します。

### scope ipv6-config

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

ファブリック インターコネクト モード

#### コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

#### 使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

#### 例

次に、IPv6 設定モードを開始する例を示します。

```
FP9300-A# scope fabric-interconnect a
FP9300-A /fabric-interconnect # scope ipv6-config
FP9300-A /fabric-interconnect/ipv6-config #
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show ipv6-if</b>	IPv6 管理インターフェイス情報を表示します。

# scope ldap

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) コンフィギュレーションモードを開始するには、**scope ldap** コマンドを使用します。

## scope ldap

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

scope security/

### コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

### 例

次の例は、LDAP モードを開始する方法を示します。

```
firepower# scope security
firepower /security # scope ldap
firepower /security/ldap #
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>create ldap-group-rule</b>	LDAP プロバイダー グループ ルール パラメータを作成します。
<b>create server</b>	セキュリティ/LDAP モードで、新しい LDAP サーバーを作成します。
<b>set</b>	セキュリティ/LDAP/サーバーモードで、SSL の有効化/無効化などのさまざまな LDAP サーバー関連パラメータを設定します。

# scope licdebug

ライセンスモードからライセンスデバッグモードを開始するには、**scope licdebug** コマンドを使用します。

## scope licdebug

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

License mode

### コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、ライセンスモードからライセンスデバッグモードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope license
FP9300-A /license # scope licdebug
FP9300-A /license/licdebug #
```

### 関連コマンド

コマンド

説明

**scope license**

ライセンスモードを開始します。

## scope license

ライセンス モードを開始するには、**scope license** コマンドを使用します。

### scope license

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

任意のコマンドモード

#### コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

#### 例

次の例は、EXEC レベルからライセンス モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope license
FP9300-A /license #
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show license</b>	一部またはすべてのライセンス パッケージの使用状況を表示します。

## scope mem-leak-logging

スタックトレース状態で各 UCSM プロセスのメモリリークを検出できるようにするには、**scope mem-leak-logging** コマンドを使用します。

### scope mem-leak-logging 設定

#### 構文の説明

設定 ノブのメモリリークログを設定します。

#### コマンドモード

scope monitoring/scope sysdebug

#### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、メモリリーク機能を有効にして、指定したプロセスのメモリリークの問題をデバッグし、スタックトレースを有効にします。

#### 例

次の例は、ノブの状態を設定し、スタックトレースモードを有効にする方法を示しています。

```
Firepower#scope monitoring
Firepower /monitoring# scope sysdebug
Firepower /monitoring/sysdebug# scope mem-leak-logging
Firepower /monitoring/sysdebug/mem-leak-logging # set ?
  appag-log           Memory Leak Logging for appAG
  bladeag-log         Memory Leak Logging for bladeAG
  dcosag-log          Memory Leak Logging for dcosAG
  dme-log             Memory Leak Logging for dme
  extvmmag-log        Memory Leak Logging for extvmmAG
  hostagentag-log     Memory Leak Logging for hostagentAG
  licenseag-log       Memory Leak Logging for licenseAG
  nicag-log           Memory Leak Logging for nicAG
  portag-log          Memory Leak Logging for portAG
  rsdag-log           Memory Leak Logging for rsdag
  serviceorchag-log   Memory Leak Logging for serviceOrchAG
  sessionmgrag-log    Memory Leak Logging for sessionmgrAG
  statsag-log         Memory Leak Logging for statsAG
  svcmonag-log        Memory Leak Logging for svcmonAG
Firepower /monitoring/sysdebug/mem-leak-logging # set statsag-log enable ?
<CR>
  stacktrace Stacktrace for Memory Leak Report
Firepower /monitoring/sysdebug/mem-leak-logging # set statsag-log enable stacktrace ?
  off Off
  on  On
```



# scope monitoring

システム モニタリング モードを開始するには、**scope monitoring** コマンドを使用します。

## scope monitoring

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。	

### 例

次の例は、モニタリング モードを開始する方法を示します。

```
FP9300-A#scope monitoring
FP9300-A /monitoring #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show server status</b>	サーバのステータスに関する情報を表示します。

## scope org

組織モードを開始するには、**scope org** コマンドを使用します。

**scope org** [*org\_name*]

### 構文の説明

*org\_name* (任意) 組織名。

### コマンドモード

任意のコマンドモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、組織モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope org org100
FP9300-A /org #
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show org</b>	現在定義されている組織をリストします。

# scope packet-capture

パケット キャプチャ モードを開始するには、**scope packet-capture** コマンドを使用します。

## scope packet-capture

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

任意のコマンドモード

### コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

1.1(1)	コマンドが追加されました。
--------	---------------

### 使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

### 例

次の例は、パケット キャプチャ モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A#scope packet-capture
FP9300-A /monitoring #
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>traceroute</b>	ネットワーク上の別のデバイスへのルートを追跡します。

# scope password-profile

パスワードプロファイル モードを開始するには、**scope password-profile** コマンドを使用します。

## scope password-profile

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

セキュリティ モード

### コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、パスワードプロファイルセキュリティ モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope security
FP9300-A /security # scope password-profile
FP9300-A /security/password-profile #
```

### 関連コマンド

コマンド

説明

**show password-profile**

パスワードプロファイル情報を表示します。

## scope profile

Smart Call Home およびスマートライセンスの宛先プロファイルモードを開始するには、**scope profile** コマンドを使用します。

**scope profile** *profile\_name*

構文の説明	<i>profile_name</i>	宛先プロファイルの名前。1 ～ 16 文字です。
コマンドモード	Callhome (/monitoring/callhome/) モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、プロファイルモードを開始し、このプロファイルで設定されている宛先を表示する方法を示しています。

```
FP9300-A /monitoring/callhome # scope profile SLProfile
FP9300-A /monitoring/callhome/profile # show destination
```

```
Destination:
  Name          Transport Protocol Email or HTTP/HTTPS URL Address
  -----
  SLDest       Https
  https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService
FP9300-A /monitoring/callhome/profile #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show profile</b>	現在定義されている Smart Call Home とスマートライセンスの プロファイルをリストします。monitoring/callhome モードで使用 できます。

# scope reservation

ライセンス予約モードを開始するには、**scope reservation** コマンドを使用します。

## scope reservation

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドモード

License mode

### コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、ライセンスモードから予約モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope license
FP9300-A /license # scope reservation
FP9300-A /license/reservation #
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>request universal</b>	予約要求コードを生成します。
<b>show license</b>	一部またはすべてのライセンスパッケージの使用状況を表示します。

## scope security

セキュリティモードを開始するには、**scope security** コマンドを使用します。

### scope security

構文の説明	このコマンドには引数またはキーワードはありません。	
コマンドモード	任意のコマンドモード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。
使用上のガイドライン	管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。	

### 例

次の例は、セキュリティモードを開始する方法を示します。

```
firepower# scope security
firepower /security #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show security</b>	EXECモードでは、現在のセキュリティポリシーに関する情報を表示します。

## scope server

サーバモードを開始するには、**scope server** コマンドを使用します。

**scope server** { *id* | *dynamic\_uuid* | *chassis\_id/blade\_id* }

構文の説明	<i>id</i>	サーバ ID。1 ~ 255 の整数。
	<i>dynamic_uuid</i>	サーバの動的汎用一意 ID (UUID)。
	<i>chassis_id/blade_id</i>	シャーシおよびブレード ID を使用して指定されたサーバ。n/n 形式で入力する必要があります。 (注) シャーシ ID は常に <b>1</b> です。
コマンドモード	EXEC モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、サーバモードを開始する方法を示します。

```
FP9300-A# scope server 1/1
FP9300-A /chassis/server #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show server adapter</b>	サーバのネットワーク アダプタに関する情報を表示します。
	<b>show server identity</b>	サーバの ID 情報を表示します。



## scope service-profile

サービス プロファイル モードを開始するには、**scope service-profile** コマンドを使用します。

**scope service-profile** { *dynamic\_uuid* | *org* | *server* }

構文の説明		
	<i>dynamic_uuid</i>	サービス プロファイルの動的 UUID。
	<i>org</i>	サービス プロファイルが作成された組織の名前。1～16 文字です。
	<i>server</i>	サービス プロファイルが作成されたサーバの ID。

コマンドモード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** *org* オプションを指定してこのコマンドを使用するには、組織およびこの組織のサービス プロファイルがすでに存在している必要があります。

*server* オプションを指定してこのコマンドを使用するには、サーバ ID、またはシャーシ ID と ブレード ID (n/n 形式) を使用してサーバを指定できます。シャーシ ID は常に **1** です。

### 例

次の例は、サービス プロファイル モードを開始する方法を示しています。

```
firepower # scope service-profile server 1/1
firepower /org/service-profile #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show service-profile</b>	サービス プロファイル情報を表示します。

## scope slot

特定の SSP モジュールのスロット モードを開始するには、**scope slot** コマンドを使用します。

**scope slot** *slot\_ID*

構文の説明	<i>slot_ID/id</i>	モジュール スロットを識別します。FP9300 の場合、この値は1、2、または3 のいずれかになります。FP4100 の場合、この値は1 です。
コマンド モード	scope ssa/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** スロット モードでは、論理デバイス上のアプリケーション イメージを更新できます。

### 例

次の例は、スロット モードを開始する方法を示しています。

```
firepower# scope ssa
firepower /ssa # scope slot 2
firepower /ssa/slot #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show security</b>	セキュリティ情報を表示します。

## scope ssa

セキュリティ サービス (ssa) モードを開始するには、**scope ssa** コマンドを使用します。

### scope ssa

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

EXEC モード

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

#### 使用上のガイドライン

管理対象オブジェクトでこのモードを開始する必要はありません。

#### 例

次の例は、ssa モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A# scope ssa
FP9300-A /ssa #
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show security</b>	セキュリティ情報を表示します。

## scope stats-collection-policy

Firepower の機能エリアの 1 つに統計情報収集ポリシーを入力するには、**scope stats-collection-policy** コマンドを使用します。

**scope stats-collection-policy** *policy-area*

構文の説明	<i>policy-area</i>	<p>特定の収集ポリシー エリア：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Adapter</b>：アダプタに関連した統計情報。</li> <li>• <b>Chassis</b>：ブレード シャーシに関連した統計情報。</li> <li>• <b>Fex</b>：設定されたファブリック エクステンダに関連した統計情報。</li> <li>• <b>Host</b>：このポリシーは今後サポートされる機能のプレースホルダです。</li> <li>• <b>Port</b>：サーバポート、アップリンク イーサネット ポート、およびアップリンク ファイバチャネル ポートを含むポートに関連した統計情報。</li> <li>• <b>Server</b>：サーバに関連した統計情報。</li> </ul>
コマンドモード	scope monitoring/	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** 統計情報は、システムの複数の機能エリアについて収集し、報告できます。

**set collection-interval** コマンドを使用して、統計情報を収集する頻度を定義し、**set reporting-interval** コマンドを使用して、統計情報を報告する頻度を定義します。これらの間隔で統計情報収集ポリシーが定義されます。

報告インターバル中に複数の統計データポイントが収集できるように、報告インターバルは収集インターバルよりも長くなります。これにより、最小値、最大値、平均値を計算して報告するために十分なデータが提供されます。



(注) 機能エリアごとにデフォルト統計情報収集ポリシーが 1 つずつあります。追加で統計情報収集ポリシーを作成できません。また、既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルト ポリシーを変更することだけが可能です。

## 例

次の例は、ポートの統計情報収集ポリシーを入力し、収集間隔を1分に設定し、レポート間隔を 30 分に設定し、トランザクションをコミットする方法を示しています。

```
firepower # scope monitoring
firepower /monitoring # scope stats-collection-policy port
firepower /monitoring/stats-collection-policy # set collection-interval 1minute
firepower /monitoring/stats-collection-policy* # set reporting-interval 30minute
firepower /monitoring/stats-collection-policy* # commit-buffer
firepower /monitoring/stats-collection-policy #
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>set collection-interval</b>	統計情報の収集頻度を指定します。
<b>set reporting-interval</b>	統計情報の報告頻度を指定します。

## scope stats-threshold-policy

システムのコンポーネントの1つに統計情報しきい値ポリシーを入力するには、**scope stats-threshold-policy** コマンドを使用します。

**scope stats-threshold-policy** *policy-name*

### 構文の説明

*policy-name*

入力する特定のしきい値ポリシーの名前。

イーサネットサーバポートまたはイーサネットアップリンクポートでは、統計情報のしきい値ポリシーを作成したり、削除できません。既存のデフォルトポリシーのみを設定できるため、これらのポリシーの場合、**default** を *policy-name* に入力します。

### コマンドモード

scope eth-server/

scope eth-uplink/

scope org/

### コマンド履歴

リリース

変更内容

1.1(1)

コマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

統計情報しきい値ポリシーは、システムの特定の側面についての統計情報をモニタし、指定されたしきい値を超えた場合にはイベントを生成します。最小値と最大値の両方のしきい値を設定できます。たとえば、CPUの温度が特定の値を超えた場合や、サーバを過度に使用していたり、サーバの使用に余裕がある場合には、アラームを発生するようにポリシーを設定できます。

イーサネットサーバポートまたはイーサネットアップリンクポートごとにデフォルトの統計情報しきい値ポリシーが1つあります。追加の統計情報しきい値ポリシーは作成できません。また、このコンポーネントの既存のデフォルトポリシーを削除できません。デフォルトポリシーを変更するだけです。

ただし、組織モード (*scope org/*) では統計情報のしきい値ポリシーを作成および削除できません。詳細については、**create stats-threshold-policy** コマンドを参照してください。



- (注) **set collection-interval** コマンドを使用して、統計情報を収集する頻度を定義し、**set reporting-interval** コマンドを使用して、統計情報を報告する頻度を定義します。これらの間隔で統計情報収集ポリシーが定義されます。

## 例

次の例は、デフォルトのイーサネットアップリンク統計情報のしきい値ポリシーを調査し、エラー統計情報クラスを作成し、巡回冗長検査（CRC）エラーカウントプロパティを作成し、各ポーリング間隔の通常の CRC エラー カウントを 1000 に指定し、通常超えの警告しきい値 1250 を作成し、クラスをコミットする方法を示しています。

```
firepower # scope eth-uplink
firepower /eth-uplink # scope stats-threshold-policy default
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy # create class ether-error-stats
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class* # create property crc-delta
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 1000
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value
above-normal warning
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set
escalating 1250
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* #
commit-buffer
firepower /eth-uplink/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

次の例では、組織モードを調査し、サーバとサーバコンポーネント統計情報に新しい統計情報しきい値ポリシーを作成し、CPU 環境統計情報のしきい値ポリシークラスを作成し、CPU 温度プロパティを作成し、通常の CPU 温度を摂氏 48.5 度に指定し、通常超えの警告しきい値を摂氏 50 度に作成し、トランザクション全体をコミットする方法を示します。

```
firepower # scope org
firepower /org # create stats-threshold-policy ServStatsPolicy
firepower /org/stats-threshold-policy* # create class cpu-env-stat
firepower /org/stats-threshold-policy/class* # create property temperature
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property* # set normal-value 48.5
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property* # create threshold-value above-normal
warning
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # set escalating
50.0
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value* # commit-buffer
firepower /org/stats-threshold-policy/class/property/threshold-value #
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>create class</b>	統計情報の新しいクラスを作成します。
<b>create property</b>	統計情報のクラスの新しいプロパティを作成します。
<b>create threshold-value</b>	クラスプロパティにしきい値（above-normal または below-normal）を指定します。
<b>scope stats-collection-policy</b>	stats-collection-policy モードを開始します。ここでは、統計情報の収集と報告の間隔を管理できます。

## scope system

システム管理モードを開始するには、**scope system** コマンドを使用します。

### scope system

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンドモード

EXEC モード

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
1.1(1)	コマンドが追加されました。

#### 使用上のガイドライン

このモードでは、コンフィギュレーションファイルのエクスポートやインポートなど、システム設定を管理できます。

#### 例

次の例は、システム管理モードを開始する方法を示しています。

```
firepower# scope system
firepower /system #
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show system</b>	このデバイスに設定されているシステムに関する情報を表示します。



## scope vnic

仮想 NIC モードを開始するには、**scope vnic** コマンドを使用します。

**scope vnic** *dynamic\_mac*

構文の説明	<i>dynamic_mac</i>	仮想 NIC ダイナミック MAC アドレス。
コマンドモード	EXEC モード サービス プロファイル モード	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	1.1(1)	コマンドが追加されました。

### 例

次の例は、組織モードで仮想 NIC モードを開始する方法を示しています。

```
FP9300-A # scope org org10
FP9300-A /org # scope service-profile sp10
FP9300-A /org/service-profile # scope vnic vNIC10
FP9300-A /org/service-profile/vnic #
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show server adapter</b>	利用可能なネットワーク アダプタに関する情報を表示します。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。